

## 神奈川県立保土ヶ谷養護学校学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和3年度 第3回 ほどう協議会		
開催日時	令和3年12月13日(月) 午前10時00分～11時30分		
開催場所	保土ヶ谷養護学校 舞岡分教室 (舞岡高校 多目的室及び教室)		
出席者	委員：8名 (欠席) 2名 事務局：5名		
次回開催予定日	令和4年2月22日(火) 午前10時00分～11時30分 於：本校		
問い合わせ先	神奈川県立保土ヶ谷養護学校 副校長 山崎 嘉信 TEL 045-714-0581 FAX 045-742-9716		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	/
審議(会議)経過			
<p>○ 開会宣言 (事務局)</p> <p>1 会長挨拶</p> <p>前年は横浜平沼分教室の見学をした。今回は舞岡分教室ということで、この後の見学が楽しみだ。</p> <p>2 学校長挨拶</p> <p>年末のお忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いてきているが、県特別支援教育課の通知に基づき基本的な対策をしつつ学びを継続して行っている。現在小中学部は通常登校、高等部と分教室は時差登校及び短縮の日課とし、校外への行事については、日程を短縮するなどして行っている。本校高等部と分教室の修学旅行は日帰りで行う。前年度やれなかったことを今年度やれるようになった。</p> <p>本日は、舞岡分教室を見学していただき、知っていただきたいと企画した。舞岡分教室は平成16年度に設置された分教室2校のうちの一つ。分教室は現在県内に20教室あり、生徒数が増加する中で設置されてきている。かながわ特別支援教育推進指針(仮称)の中で、分教室の意義、設置校との連携等が示されている。本日はそのような中、いろいろなご意見をいただきたい。</p> <p>3 出席者及び会成立の確認 (事務局)</p> <p>本日は、G委員、E委員が欠席、8名が参加されているので会は成立した。</p>			

#### 4 資料確認、流れ説明（事務局）

本日の流れは資料にあるとおり、この後はA委員に進行をお任せする。

#### 5 議題（報告・説明）

（A委員） 第2回学校運営協議会について、報告いただきたい。

（事務局） 前回の第2回でいただいた意見を基に、年度末に向けて職員一同がんばっているところである。また、次回の学校運営協議会では評価についてのご意見をいただきたいと考えている。

（A委員） 今の報告に対し何かあるか。特にないようなので、出された意見を基に活動していってほしい。では、分教室について説明願いたい。

（事務局） 県立の特別支援学校の分教室はいわゆる分校とは異なり、一つの学校としてではなく高校内に設置されて教育活動を行っている。設置の理由としては、必要とする生徒数が増加していることが挙げられる。県立の分教室は現在16校20教室あり、1校で2教室設置されているところもある。舞岡分教室は平成16年に、横浜平沼分教室は平成22年に設置されている。これらは施設の関係で一斉授業を行っている。

では、横浜平沼分教室から説明させていただく。

（事務局） 横浜平沼分教室は平成22年に設置され、現1年生が12期生になる。

<資料を基に、教育目標、日課表、友の会、職業、校内実習のことと等説明>

授業では、コロナの影響で例年のようにはできていないものがある。

職業では、1日を通して働ける体力・集中力、それに社会人としての態度等を養うことを目指している。職業班の内、サービス班は生徒たちの就労先にサービス業が増えてきていることから、人と接する練習をしているが、現在コロナでコーヒーのサービスが提供できていない。また、職業班は3年間で三つの班を一通り経験するようになっている。校内実習も例年は外で活動をしているが、今年度はできていない。

（事務局） 舞岡分教室は県内で一番古い分教室である。近隣の資源を生かしたり、田んぼ作業をしたりが教育活動の特色となっている。高校から5教室を借りている。生徒数は3学年合わせて36名、2年生が8名と少ない。教員は12名おり、現在欠員1名なので11名で運営している。

来年度から新カリキュラムへ移行するため、日課表を作り替える作業をしている。職業を1日通してやりたいということと教科名を明示できるようにしたいと考えている。

コロナ禍で家庭科や音楽の授業は苦勞している。

職業はこれまで、ものづくり中心だったが、来年度からサービス業を取り入れたいと考えている。田んぼ作業は1年を通じて行っている。高校生にも一部参加してもらった。

分教室の志願資格は、集団指導を受けられること、自力登校できることがある。

生徒の様子が以前からは変わってきている。特に発信力がなくなっている。困ったことがあっても本人から伝えられない。そのため発信力を高めるということが舞岡分教室の課題としてあげられる。本日2年生が委員の皆さまの案内を体験させていただいたが、そのねらいも発信力の向上にある。今後も外に向けての体験をさせていきたい。

## 6 授業見学（及び休憩）

## 7 協議

(C委員) 本日見学させていただき感謝申し上げます。前回見学したのは5～6年前だが、生徒の様子は変わったように見受けられる。今日は生徒が発言をよくしていた。前はものづくりをしておとなしかった。1年生はしっかりしているように見えた。

なぜ2年生は少ないのだろうか。環境はいいのに。また、女子が多いと感じた。女子の志願者が多いからか、それともそもそも女子が多いからなのか。

(D委員) 現職時に分教室の立ち上げに関わった。当時は高校から施設を借りるにあたり調整が難しかった。高校が時間割を組んだ後に分教室の時間割を入れるのでとても大変だった。4月になってやっと組んでいた。

設置校の協力と思いやりが必要で、一度生徒の傘がなくなったことがあり、その時は全校集会を開いて対応してくれた。受け入れ側がいろいろ考慮してくれ生徒たちも安心して通うことができた。本日来てみて、生徒の質が変わったように感じる。

どういう風に自分を発信していくか難しいことだが、がんばってもらいたい。

(A委員) 設置校の理解、生徒たちの変容等出された。後ほど意見交換をしたい。

(H委員) 舞岡分教室は高台にあり、環境はとてもよい。プレハブも暖かい。

高校生と会ってもおとなしい印象を受けた。分教室の生徒も皆きちんと授業を受けていて驚いた。

コロナ禍で大変な様子がうかがえる。音楽の授業も難しいとのこと。生徒たちの将来に影響しないといいが。

(F委員) 県内の分教室が20教室あることを知らなかった。宮谷小、浅間台小にいたことがあるが、横浜平沼高校に分教室があることを知らなかった。

BUNカフェは再開したらぜひ行ってみたい。

女子が多いとのことだが、一般に個別支援級在籍の女子は少ない。小学校の個別支援級も在籍児童数は増えている。入学後に困り感のある児童への働きかけにより入級する子もいる。

保護者にとっては進路先が見えないことが不安になっている。進路が多様化してい

ることを伝えていきたい。

(I 委員) 今日分教室に初めて来た。噂には聞いていたが、生徒が案内をしてくれるとか、授業の様子だとかを実際に見ることができた。案内してくれた生徒がこちらと目を合わせてくれたことに驚いた。

見学した授業では、難しいことをやっていた。生徒たちの笑顔が多いことにほっとした。コロナによる制限が今後に影響するとかわりそうに思う。

一日を通して驚きが多かった。

(B 委員) 一般に本校とは違い分教室の生徒たちの障害の程度は軽い。分教室の生徒たちは就労する者が多い。

1年生の教室で働くことの意味についての授業を行っていたが、3人の先生たちのチームワークがとてもよかった。いい授業だった。

見学前に説明された中で2つ、1つは横浜平沼分教室で1日を通した職業の時間(舞岡もだが)を取っているが、これはとても大切なことだ。言葉遣い、態度も大切。

2つ目は質問だが、舞岡分教室では班の構成を変えるとのことだが、環境整備班の内容は大切なものとするがこれはどうなるのか?また、受注班はどのようなことをするのか?

(事務局) 受注班は近隣の事業所等から仕事をもらう。環境整備班については、無くすのではなく、名称をサービス班と変えるだけである。

(B 委員) 特例子会社の仕事の大半は清掃業務、大事にしてもらいたい。

(A 委員) ポイントを絞って意見交換したい。Iさんの目を合わせて対応してくれたということやB委員のいい授業といった意見があったが。

まず、生徒像について、女子が多いということだが、その辺はどうとらえているか聞きたい。

(事務局) 本校では男子が多い。分教室に入る女子はほぼ支援級からの入学。

(事務局) 現在男女はほぼ半々。たまたまそうなのではないか。ただし、来年度は2対1で男子が多くなる見込み。

(A 委員) 重点目標は進めてもらいたい。設置校との連携はどうなっているか。

(事務局) 以前より専用の部屋を一つ増やしてもらった。

(事務局) 高校側の理解はかなり進んでいる。いろいろ協力してもらっている。一方で理解が進まない人も中にはいるが。

(A 委員) 理解の促進は今後に向けた課題となっているようだ。

好きなものがわかるようになる指導についてはどうか、来年度以降の職業の取組み、これまでできなかった家庭科や音楽の取組み等今後どう進めていくか。

(事務局) 今の3年生はコロナ禍の影響を一番受けている。進路には影響が出ないよう努めてきて現場実習も体験させてきた。ここにきて生徒たちの進路も不登校の生徒を除き

ほぼ決まってきた。

(事務局) 実態に応じた指導を来年度から取り組んでいく。進路学習を明確にする。職業の時間を1日にし、清掃も続けていく。

コロナの影響についても家庭科や音楽などやれることが増えてきた。卒業後に影響が出ないようにしていきたい。

(A 委員) 卒業後のベースになるような、好きなものに取り組める時間についてはどうか、総合的な探究の時間とかがそれにあたるか。働く力のベースとなる力はどうやってつけていくか。

(H 委員) 人間は自分の好きなことを見つけられると、それを長く仕事にすることができるものだ。学生時代はそれを見つけるチャンスだが、音楽の授業等の現状を聞くとかわいそうに思った。

(A 委員) 状況はちょっとずつ改善されているようだ。

(C 委員) 体力は大事だ。入社すると立ち仕事が続く。体力不足も離職の理由の一つになる。思ったようにできない、ついていけないといって辞める者がここ1～2年で出てきている。

(A 委員) D 委員にお聞きする。高校側の理解促進はどうやるとよいか。

(D 委員) 設置当時は受け入れ側の校長もかまえて準備をしていた。何が必要かよく聞かれた。こちらもこういう配慮がほしいと伝えた。

常にこちらから発信しつつ、こちらが直すべきことは直すことも必要だと考える。

(F 委員) BUNカフェの活動はすごくいいと思う。地道な交流が大事だが何かきっかけがないと難しく、それがあると触れ合えるように思う。分教室も近隣の小中学校と交流ができるといいのではないか。子どもたちの方がうまく接することができるように思う。

(I 委員) 不登校の生徒への対応はどうなっているか聞きたい。

(事務局) 個別に対応している。現状どの分教室にも不登校生徒が在籍している。遅刻して登校することを認めたり、教室に入りづらければ個別のスペースを確保したり、一人ひとり条件を変えて対応している。

(A 委員) 背景は様々なようだが、充実した対応をしてもらいたい。

ここで一旦終了とし、進行を事務局に返すこととする。

## 8 事務連絡 (事務局)

多くのご意見をいただき感謝申し上げます。

次回は2月22日(火)に設定させていただく。時間は同じ。本校にて行う。

## 9 学校長あいさつ

本日は感謝。短時間ではあったが、励ましのご意見をいただいた。職員の力になるので、ぜひ紹介していきたい。今後の教育活動につなげていきたい。

10 副会長あいさつ

挨拶の前にお願いが一つ、本日のスライドを電子データにして送ってほしい。  
本日の会はとても有意義なもので勉強になった。渡辺会長の司会によりとてもよい議論ができた。校長先生に置かれてはよい場を設けていただき感謝申し上げます。

以上

会 議 資 料

※添付なし